

Horizon 7 ユーザー プロファイルの移行

変更日 : 2018 年 5 月 29 日
VMware Horizon 7 7.5



vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります
このドキュメントに関するご意見および感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2012–2018 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。 [著作権および商標情報](#)。

目次

Horizon 7 ユーザー プロファイルの移行 4

1 ユーザー プロファイル移行の概要 5

ユーザー プロファイル移行のベスト プラクティス 6

プロファイル移行ユーティリティを実行するための前提条件 7

migprofile.exe コマンドの使用方法 7

移行の構成ファイル 9

Horizon 7 ユーザー プロファイルの移行

『Horizon 7 ユーザー プロファイルの移行』では、プロファイル移行コマンドライン ユーティリティを使用して、V2 形式を使用する Windows 7、Windows 8/8.1、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 R2 ユーザー プロファイルから V5 形式を使用する Windows 10 ユーザー プロファイルに移行する方法について説明します。V1 形式を使用する Windows XP ユーザー プロファイルから V2 形式を使用する Windows バージョンのプロファイルに移行することもできます。

対象読者

この情報は、物理コンピュータまたは仮想マシンの V1 または V2 プロファイルを Horizon 7 環境の V2 または V5 プロファイルに移行する Horizon 7 管理者を対象としています。この情報は、XML および Horizon Persona Management 機能について理解している Windows システム管理者向けに記述されています。

ユーザー プロファイル移行の概要

スタンドアロンのコマンドライン ユーティリティである **migprofile.exe** を使用すると、V2 ユーザー プロファイルを V5 ユーザー プロファイルに移行したり、V1 ユーザー プロファイルを V2 ユーザー プロファイルに移行したりできます。このユーティリティは、Horizon 7 環境のレガシー マシンから移行するユーザー、または Horizon 7 環境で任意の物理環境または仮想環境のレガシー コンピュータから新しい Windows バージョンに移行するユーザーを対象としています。

ユーザー プロファイルの移行後、Horizon Persona Management 機能は Horizon 7 マシンで V2 または V5 プロファイルを統合します。ユーザーが新しいデスクトップにログインすると、同じ個人設定と元のマシンで使用されたデータが表示されます。

表 1-1 に、**migprofile.exe** ユーティリティで移行可能な Windows ユーザー プロファイルと、関連する Windows オペレーティング システムのバージョンを示します。

表 1-1. 移行元/移行先のユーザー プロファイルと Windows オペレーティング システムのバージョン

移行元のユーザー プロファイル	移行元の Windows バージョン	移行先のユーザー プロファイル	移行先の Windows バージョン
V2	Windows 7、Windows 8/8.1、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2	V5	Windows 10
V1	Windows XP	V2	Windows 7、Windows 8/8.1、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2

Windows XP または Windows Vista デスクトップ環境から Windows 10 デスクトップ環境にユーザー プロファイルを移行する場合には、V1 プロファイルを V2 に移行し、その後、V2 プロファイルを V5 に移行します。

重要 View Agent 6.1 以降のリリースでは、Windows XP および Windows Vista デスクトップはサポートされていません。これらのゲスト OS をサポートしている最新のリリースは View Agent 6.0.2 です。Windows XP および Vista に関して Microsoft と拡張サポート契約を行っているお客様、およびこれらのゲスト OS システムに関して VMware と拡張サポート契約を行っているお客様は、接続サーバ 6.1 を使用して Windows XP および Vista デスクトップの View Agent 6.0.2 バージョンを展開できます。

ユーザー プロファイル移行ユーティリティを使用して、レガシー Windows XP デスクトップ環境から、将来のリリースで継続的にサポートされるデスクトップ環境への移行で重要なタスクを実行できます。

次の場所にある V1 または V2 プロファイルを移行できます。

- CIFS ネットワーク共有上のリモート プロファイル リポジトリ。

このユーティリティは、同じ CIFS ネットワーク共有または異なる CIFS 共有上の複数のリモート プロファイルを移行できます。

- 物理コンピュータまたは仮想マシン上のユーザーのローカル プロファイル。

このユーティリティは、コンピュータ上の単一のローカル プロファイルを移行できます。複数のユーザーのローカル プロファイルを移行する場合、バッチ モードでの実行をユーティリティに指示するスクリプトを作成できます。

移行元の環境は、物理コンピュータまたは仮想マシンから構成できます。Horizon Persona Management または Windows ローミング プロファイルなどのリモート プロファイル管理ソリューションで移行元の環境を構成する必要はありません。リモート プロファイル管理ソリューションが存在しない場合には、移行元のプロファイル パスとしてユーザーのローカル プロファイルを指定する必要があります。

プロファイル移行ユーティリティには次の特徴があります。

- V2 または V5 プロファイルの移行先は、CIFS ネットワーク共有上のリモート プロファイル リポジトリにする必要があります。Horizon 7 では、この CIFS パスを Horizon Persona Management リモート プロファイル リポジトリとして設定する必要があります。
- 移行ツールは、スタンドアロン ユーティリティとして実行します。Horizon 7 コンポーネントをプロファイルの移行中に実行する必要はありません。
- 移行ユーティリティは、ユーザー プロファイルのデータとレジストリの設定を一度に移行します。
移行先でプロファイルが作成された後に、移行元と移行先のプロファイルを統合しません。移行後もユーザーがレガシー コンピュータを引き続き使用すると、レガシー コンピュータで生成された新しいプロファイル データは、移行後のプロファイルとは別に維持されます。
- コマンド ライン引数と移行の構成ファイルの設定を使用すると、移行元と移行先を制御し、移行するフォルダとレジストリ キーを指定できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ユーザー プロファイル移行のベスト プラクティス](#)
- [プロファイル移行ユーティリティを実行するための前提条件](#)
- [migprofile.exe コマンドの使用方法](#)
- [移行の構成ファイル](#)

ユーザー プロファイル移行のベスト プラクティス

プロファイルを確実に移行できるように、ベスト プラクティスに従ってください。

- プロファイルの移行を開始する前に、Horizon 7 でユーザーに移行先のデスクトップ プールを設定してください。デスクトップ プールの Horizon Persona Management を設定します。

特に、Horizon Persona Management リモート プロファイル リポジトリとして CIFS ネットワーク共有を設定します。CIFS ネットワーク共有は移行先のパスになります。

- ほとんどの V1 プロファイルは 32 ビットのため、レガシー Windows XP マシンの V1 プロファイルを移行する場合には Windows 7 以降の 32 ビット システムで移行ユーティリティを実行してください。
- 可能であれば、移行先の Horizon 7 デスクトップ プールが使用する同じテンプレートまたは仮想マシン イメージで移行ユーティリティを実行してください。基本イメージのデフォルト プロファイル内のフォルダとファイルが移行先のユーザー プロファイルに移行されます。
- 移行後もレガシー システムを使用する必要がある場合には、レガシー システムと移行先の Horizon 7 マシンの両方にリダイレクト フォルダを設定してください。これにより、両方のシステムからファイルにアクセスできるようになります。

プロファイル移行ユーティリティを実行するための前提条件

migprofile.exe ユーティリティを実行する前に、レガシーおよび移行先の環境が特定の前提条件を満たしていることを確認してください。

- 移行先の Windows オペレーティング システム バージョンを実行する物理コンピュータまたは仮想マシンで移行ユーティリティを実行します。

V5 ユーザー プロファイルに移行する場合には、Windows 10 マシンでユーティリティを実行します。

V2 ユーザー プロファイルに移行する場合は、Windows 7、Windows 8/8.1、Windows Server 2008 R2、または Windows Server 2012 R2 マシンでユーティリティを実行します。

- ローカル管理者としてシステムにログインします。
- ユーティリティを実行するシステムが、移行元のパスと移行先のパスが含まれる CIFS ネットワーク共有にアクセスできることを確認します。
- このユーティリティを実行するユーザー アカウントが移行先の CIFS ネットワーク共有のローカル管理者であることを確認します。
- ユーティリティを実行するユーザー アカウントが、移行するユーザー プロファイルに完全な所有権を持っていない場合には、ユーティリティで **/takeownership** オプションを指定します。

このオプションを使用すると、移行中にユーザー プロファイル フォルダの所有権がユーティリティに渡されます。移行が完了すると、ユーザーに所有権が戻されます。

- 移行を開始する前に、移行するプロファイルのユーザーがレガシー システムにログインしていないことを確認します。

移行中にアクティブ セッションが存在すると、移行に失敗する場合があります。

- 移行が完了する前に、ユーザーに移行先のデスクトップを使用させないでください。

ユーザーが Horizon 7 デスクトップの使用を開始すると、Horizon Persona Management が移行先の V2 または V5 ユーザー プロファイルを作成します。移行の実行前に移行先にプロファイルが存在する場合、ユーティリティは移行先に存在するプロファイルを残し、レガシー プロファイルを移行しません。

migprofile.exe コマンドの使用方法

migprofile.exe コマンドの構文によって、プロファイルの移行が制御されます。

Horizon Persona Management セットアップ オプションを使用して仮想マシンに Horizon Agent をインストールしている場合、**migprofile.exe** ユーティリティは **<install_directory>\VMware\VMware View\Agent\bin** ディレクトリにインストールされています。

システムにスタンドアローンの Horizon Persona Management ソフトウェアをインストールしている場合、**migprofile.exe** ユーティリティは **<install_directory>\VMware\VMware View\Persona Management** ディレクトリにインストールされています。

Windows コマンド プロンプトで、次の構文を使用して **migprofile.exe** コマンドを実行します。

```
migprofile.exe [/s:<source_path>] [/t:<target_path>] [/v2] [/r-:] [/takeownership]
[<config_file>]
```

表 1-2. migprofile.exe のコマンド ライン オプション

オプション	説明
/s:<source_path>	移行元の V2 または V1 プロファイルのパス名。 V2 の子フォルダをすべて V5 に移行する場合には、ワイルドカード「 *.v2 」を使用します。 V1 の子フォルダをすべて V2 に移行する場合には、ワイルドカード「 * 」を使用します。 このオプションは必須です。移行元のパスをコマンドラインまたは移行の構成ファイルのいずれかに指定する必要があります。移行元のパスを両方の場所に指定した場合、コマンドラインの値が使用されます。
/t:<target_path>	移行先の V5 または V2 プロファイルのパス名。 移行ユーティリティは、このパスの下にフォルダを作成します。このフォルダには、移行元のプロファイル フォルダ名に .V5 または .V2 を追加した名前が使用されます。 移行元のパスがコンピュータのローカル プロファイルの場合、このオプションは必須です。 移行元のパスが CIFS ネットワーク共有上にある場合、このオプションは省略可能です。この場合、移行先のパスを指定しないと、同じ CIFS ネットワーク共有の移行元のプロファイル フォルダの兄弟として移行先のプロファイル フォルダが作成されます。
/v2	V2 プロファイルを V5 プロファイルに移行します。 V2 から V5 に移行する場合、このオプションは必須です。 /v2 オプションを使用しないと、ユーティリティは V1 から V2 へのプロファイル移行を実行します。
/r-:	レジストリの移行を無効にします。 このオプションは省略可能です。
/takeownership	移行中に、ユーザー プロファイルの所有権を migprofile.exe ユーティリティに渡します。 移行ユーティリティを実行する管理者アカウントに、移行するユーザー プロファイルの所有権がない場合には、このオプションを使用します。通常、ユーザー プロファイルの所有権を持っているのは、ユーザーと SYSTEM アカウントだけです。 このオプションは省略可能です。このオプションを使用すると、移行の完了後、ユーザー プロファイルの元の所有権が復元されます。
<config_file>	移行の構成ファイルの名前。 このオプションは省略可能です。両方の場所に値を指定した場合、構成ファイルよりもコマンドライン オプションが優先されます。

migprofile.exe コマンド ラインの例

次の例では、`\\file01\profiles` フォルダ内にあるすべての V1 ユーザー プロファイルを同じ場所に移行します。各ユーザーのルート フォルダ名に `.V2` が付加された名前で、V2 ユーザー プロファイルが作成されます。移行中に、ユーティリティがユーザー プロファイルの所有権を取得します。

```
migprofile.exe /s:\\file01\profiles\* /takeownership
```

次の例では、`\\file02\share\profiles` フォルダ内にあるすべての V2 ユーザー プロファイルを同じ場所に移行します。各ユーザーのルート フォルダ名に `.V5` が付加された名前で、V5 ユーザー プロファイルが作成されます。移行中に、ユーティリティがユーザー プロファイルの所有権を取得します。

```
migprofile.exe /s:\\file02\share\profiles\*.v2 /v2 /takeownership
```

次の例では、`migconfig.xml` ファイルで指定されている移行設定を使用します。

```
migprofile.exe migconfig.xml
```

次の例では、コンピュータ `devvm winxp` のユーザー `ts115` の V1 プロファイルをリモートパス `\\file01\profiles` に移行します。移行中に、ユーティリティがユーザー プロファイルの所有権を取得します。

```
migprofile.exe /s:\\devvm-winxp\c$\documents and settings\ts115  
/t:\\file01\profiles\ /takeownership
```

次の例では、コンピュータ `devvm-win7` のユーザー `ts115` の V2 プロファイルをリモートパス `\\file02\share\profiles` に移行します。移行中に、ユーティリティがユーザー プロファイルの所有権を取得します。

```
migprofile.exe /s:\\devvm-win7\c$\Users\ts115.v2  
/t:\\file02\share\profiles\ /v2 /takeownership
```

移行の構成ファイル

プロファイル移行コマンドのコマンド ライン オプションに、移行の構成ファイルを指定できます。プロファイルの移行元と移行先などの設定を構成ファイルに指定できます。このファイルは、実行時にプロファイル移行ユーティリティに渡されます。

移行の構成ファイルは省略可能です。コマンド ライン オプションを入力すると、対応する構成ファイルで指定した設定がオーバーライドされます。

移行の構成ファイルの形式

移行の構成ファイルは XML 形式で、読み取り、編集、拡張を簡単に行うことができます。設定の詳細については、[「移行の構成ファイルの設定」](#)を参照してください。

実行できるのは、V1 から V2 への移行または V2 から V5 への移行のいずれかです。同じ構成ファイルで両方の移行パスを実行することはできません。

source タグで、V1 から V2 への移行なのか V2 から V5 への移行なのかを指定します。1 つの構成ファイルで利用できる **source** タグは 1 つだけです。

```
<migconfig takeownership="<takeownership_value">

  <!-- specify the source V1 profiles to be migrated -->
  <source>
    <!-- specify the location of user profiles to be migrated -->
    <profilepath><source_profile_path></profilepath>
  </source>

  <!-- OR -->

  <!-- specify the source V2 profiles to be migrated -->
  <source>
    <!-- specify the location of user profiles to be migrated -->
    <profilepath><source_profile_path></profilepath>
    <!-- specify a V2-to-V5 profile migration -->
    <migv2tov5>true</migv2tov5>
  </source>

  <!-- specify the target destination of converted V2 or V5 profiles -->
  <target>
    <profilepath><target_profile_path></profilepath>
  </target>

  <!-- specify other profile migration settings -->
  <migration>

    <!-- migration settings for profile folders and files -->
    <profile>
      <!-- by default, all top-level profile folders are included -->
      <!-- except 'Cache', 'History', & 'Local AppData' -->
      <includeolders><included_profile_folders></includefolders>
      <excludefolders><excluded_profile_folders></excludefolders>
    </profile>

    <!-- migration settings for profile registry hive -->
    <registry [disabled="1"]>
      <!-- by default, no registry keys are converted -->
      <includekeys><included_registry_keys></includekeys>
      <excludekeys><excluded_registry_keys></excludekeys>
    </registry>

  </migration>
</migconfig>
```

移行の構成ファイルの設定

移行の構成ファイルには、プロファイルの移行を制御する設定を指定できます。一部の設定は、**migprofile.exe** コマンドライン オプションに対応します。追加の設定により、移行の他の設定を指定できます。

たとえば、対象または対象外にするフォルダやレジストリ キーを指定できます。

ユーザー プロファイルの所有権の取得

移行中に **migprofile.exe** ユーティリティがユーザー プロファイルの所有権を取得するように設定するには、**takeownership** を "1" に設定します。次の形式を使用します。

```
<migconfig takeownership="1">
  ...
  ...
</migconfig>
```

この設定を指定しない場合、デフォルトの "0" が使用され、**takeownership** の動作がオフになります。

V1 から V2 への移行または V2 から V5 への移行

V2 から V5 にプロファイルを移行するには、**migv2tov5** の設定を **true** に設定します。この設定を使用しない場合、ユーティリティは V1 から V2 へのプロファイル移行を実行します。

source タグに **migv2tov5** を指定します。1 つの構成ファイルで使用できる **source** タグは 1 つだけです。

実行できるのは、V1 から V2 への移行または V2 から V5 への移行のいずれかです。同じ構成ファイルで両方の移行パスを実行することはできません。

次の例では、V2 から V5 へのプロファイル移行を指定します。

```
<source>
  <profilepath><source_profile_path></profilepath>
  <migv2tov5>true</migv2tov5>
</source>
```

次の例では、V1 から V2 へのプロファイル移行を指定します。

```
<source>
  <profilepath><source_profile_path></profilepath>
</source>
```

移行元プロファイルのパス

移行元の V1 または V2 プロファイルのパスを指定するには、**<source_profile_path>** 設定を使用します。

```
<source>
  <profilepath><source_profile_path></profilepath>
</source>
```

or

```
<source>
  <profilepath><source_profile_path></profilepath>
  <migv2tov5>true</migv2tov5>
</source>
```

コマンドライン オプションで移行元プロファイルのパスを指定しない場合、この設定を移行の構成ファイルで指定する必要があります。単一のユーザー プロファイルのパスを指定するか、* ワイルドカードを使用してフォルダ内にあるすべてのプロファイルを移行します。

次の例では、個々のリモート ユーザー プロファイルを指定します。

```
<source>
  <profilepath>\\file01\profiles\ts115</profilepath>
</source>

<source>
  <profilepath>\\file02\share\profiles\ts115.v2</profilepath>
  <migv2tov5>true</migv2tov5>
</source>
```

次の例では、既存のマシンの個々のユーザーのローカル プロファイルを指定します。

```
<source>
  <profilepath>\\devvm-winxp\c$\documents and settings\ts115</profilepath>
</source>

<source>
  <profilepath>\\devvm-win7\c$\Users\ts115.v2</profilepath>
  <migv2tov5>true</migv2tov5>
</source>
```

次の例では、リモートの共有フォルダ内のすべてのリモート ユーザー プロファイルを指定します。

```
<source>
  <profilepath>\\file01\profiles\*</profilepath>
</source>

<source>
  <profilepath>\\file02\share\profiles\*.v2</profilepath>
  <migv2tov5>true</migv2tov5>
</source>
```

移行先プロファイルのパス

<Target_profile_path> 設定を使用して、移行後の V2 または V5 プロファイルのパス名を指定します。

```
<target>
  <profilepath><target_profile_path></profilepath>
</target>
```

このユーティリティは、移行先の V2 のルート フォルダ名に **.V2** を追加し、移行先の V5 ルート フォルダ名に **.V5** を追加します。

対象にするフォルダ

移行対象にするプロファイル フォルダを指定するには、<Included_profile_folders> 設定を使用します。

デフォルトでは、**Cache**、**History**、**Local AppData** を除くすべての最上位レベルのシェル フォルダが移行されます。この設定を使用すると、指定されたフォルダのみが移行されます。

この設定では、カンマ区切りのリストを使用します。フォルダを指定するには、[表 1-3](#)にあるフォルダ ID を使用します。フォルダ名を使用しないでください。

次の例では、移行対象のフォルダとして My Documents、Desktop、Start Menu、Network Neighborhood を指定します。

```
<includefolders>Personal, Desktop, Start Menu, NetHood</includefolders>
```

表 1-3. 移行の構成ファイルで使用するフォルダ ID

フォルダ ID	Windows のフォルダ名
AppData	\Application Data
Cache	\Local Settings\Temporary Internet Files
Cookies	\Cookies
Desktop	\Desktop
Favorites	\Favorites
History	\Local Settings\History
Local AppData	\Local Settings\Application Data
My Music	\My Documents\My Music
My Pictures	\My Documents\My Pictures
My Video	\My Documents\My Videos
NetHood	\NetHood (Network Neighborhood)
Personal	\My Documents
PrintHood	\PrintHood (Printer Neighborhood)
Programs	\Start Menu\Programs

表 1-3. 移行の構成ファイルで使用するフォルダ ID (続き)

フォルダ ID	Windows のフォルダ名
Recent	\Recent
SendTo	\SendTo
Start Menu	\Start Menu
Startup	\Start Menu\Programs\Startup
Templates	\Templates
OneDrive	\OneDrive (V5 プロファイルのみで使用)

除外するフォルダ

移行対象から除外するプロファイル フォルダを指定するには、`<excluded_profile_folders>` 設定を使用します。このリストを使用すると、デフォルトの対象フォルダと `<included_profile_folders>` リスト内のフォルダの下にあるフォルダを除外できます。

この設定では、カンマ区切りのリストを使用します。フォルダを指定するには、表 1-3 にあるフォルダ ID を使用します。フォルダ名を使用しないでください。

次の例では、My Documents と My Pictures フォルダを移行の対象外に指定します。

```
<excldefolders>Personal, My Pictures</excldefolders>
```

レジストリの移行を無効にする

レジストリの移行を無効にするには、省略可能な **disabled** を "1" に設定します。次の形式を使用します。

```
<registry disabled="1">
</registry>
```

追加するレジストリ キー

移行に追加するレジストリ キーを指定するには、`<included_registry_keys>` 設定を使用します。

デフォルトでは、ユーザー レジストリ ハイブ内のすべてのレジストリ キーが V2 プロファイルに移行されます。この設定を使用すると、指定したレジストリ キーのみが移行されます。

この設定では、カンマ区切りのリストを使用します。レジストリ キーを指定するには、次のキー ID を使用します。

- Console
- Control Panel
- Identities
- Keyboard Layout
- Printers

- Software
- System
- AppXBackupContentType (Windows 10 で使用)

次の例では、Console キーと System キーを指定します。

```
<includekeys>Console, System</includekeys>
```

除外するレジストリ キー

移行対象から除外するレジストリ キーを指定するには、**<excluded_registry_keys>** 設定を使用します。デフォルトの対象のキー、**<Included_registry_keys>** リストのキー、最上位のキーのサブキーを移行から除外できます。

この設定では、カンマ区切りのリストを使用します。レジストリ キーを指定するには、「[追加するレジストリ キー](#)」にあるキー ID を使用します。

移行の構成ファイルの例

移行の構成ファイルで設定を編集して、移行を制御できます。

例: リモート プロファイル パスにある V2 プロファイルの移行

次のサンプル ファイルは、リモートにある **\\file02\share\profiles** フォルダ内のすべての V2 プロファイルを同じ場所で V5 プロファイルに変換します。

移行後の V5 プロファイルは、V2 プロファイルと同じユーザー名を使用します。ユーザーのルート フォルダに V5 という拡張子が追加されます。**Local Settings** を除くすべてのフォルダが移行されます。ユーザーのレジストリ キーが移行されます。

```
<migconfig version = "0.2">

  <!-- specify the source V2 profiles to be migrated -->
  <source>
    <!-- specify the location of user profiles to be migrated -->
    <profilepath>\\file02\share\profiles\*.v2</profilepath>
    <!-- specify a V2-to-V5 profile migration -->
    <migv2tov5>true</migv2tov5>
  </source>

  <!-- specify the target destination of converted V5 profiles -->
  <target>
    <profilepath>\\file02\share\profiles</profilepath>
  </target>

</migconfig>
```

例: リモート プロファイル パスにある V1 プロファイルの移行

次のサンプル ファイルは、リモートにある `\\file01\profiles` フォルダ内のすべての V1 プロファイルを同じ場所で V2 プロファイルに変換します。

移行後の V2 プロファイルは、V1 プロファイルと同じユーザー名を使用します。ユーザーのルート フォルダに `.V2` という拡張子が追加されます。`Local Settings` を除くすべてのフォルダが移行されます。ユーザーのレジストリ キーが移行されます。

```
<migconfig version = "0.2">

  <!-- specify the source V1 profiles to be migrated -->
  <source>
    <!-- specify the location of user profiles to be migrated -->
    <profilepath>\\file01\profiles\*</profilepath>
  </source>

  <!-- specify the target destination of converted V2 profiles -->
  <target>
    <profilepath>\\file01\profiles</profilepath>
  </target>

</migconfig>
```

例: ユーザーのローカル V1 プロファイルからの移行

次のサンプル ファイルは、ローカルにあるユーザー `ts115` の V1 プロファイルを変換します。このユーティリティは、`devvm winxp` マシンのローカル プロファイルをリモートの `\\file01\profiles` フォルダで V2 プロファイルに移行します。

`My Documents`、`Desktop`、`Start Menu` プロファイル フォルダに含まれるファイルのみが移行されます。ユーザーのレジストリ キーが移行されます。

```
<migconfig version = "0.2">

  <!-- specify the source V1 profiles to be migrated -->
  <source>
    <!-- specify the location of user profiles to be migrated -->
    <profilepath>\\devvm-winxp\c$\documents and settings\ts115</profilepath>
  </source>

  <!-- specify the target destination of converted V2 profiles -->
  <target>
    <profilepath>\\file01\profiles</profilepath>
  </target>

  <!-- specify other profile migration settings -->
  <migration>

    <!-- migration settings for profile folders and files -->
    <profile>
```



```
<!-- by default, all top-level profile folders are included -->  
<!-- except 'Cache', 'History', and 'Local AppData' -->  
<includefolders>Personal, Desktop, Start Menu</includefolders>  
</profile>  
  
</migration>  
  
</migconfig>
```